宇治拾遺物語（絵仏師良秀）　＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より、火出できて、風おしおほひて、せめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。人の書かする仏もおははしけり。また、ア衣着ぬイ妻子なども、①さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるを②ことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、すでに我が家に移りて、煙・炎、くゆりけるまで、おほかた、向かひのつらに立ちてながめければ、「あさましきこと。」とて、人ども、来とぶらひけれど、騒がず。「いかに。」と、人、言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、うちうなづきて、時々笑ひけり。③「あはれ、しつるせうとくかな。年ごろは、わろく書きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。あさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「なんでふ、A物のつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎を悪しく書きけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれと、心得つるなり。これこそ、せうとくよ。④この道を立てて世にあらんには、仏だによく書きたてまつらば、百千の家も出で来なん。わ党たちこそ、させる能もおはせねば、B物をも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

その後にや、良秀がよぢり不動とて、今に、人々、⑤めで合へり。

問一　本文中の次の語句を現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

1　おしおほひて　　2　なんでふ　　3　せうとく

問二　二重傍線部ア、イの漢字の読みを現代仮名遣いを用いて平仮名で書きなさい。

問三　傍線部①「さながら」、②「ことにして」、③「あはれ」について答えなさい。

1　「さながら」の本文中での意味は、次のうちどれが適切か、記号で答えなさい。

ア　そのまま　　イ　全然　　ウ　全部　　エ　ちょうど

2　「ことにして」の「こと」に漢字を当てるとすれば、次のどれが適切か、記号で選びなさい。

ア　異　　イ　事　　ウ　殊　　エ　言

3　「あはれ」についての次の説明文の空欄①～④に品詞名を入れなさい。

「あはれ」は（　①　）詞で「ああ」という意味です。「あはれ」に「なり」がつくと（　②　）詞、「ぶ」がつくと（　③　）詞、「み」がつくと（　④　）詞になります。

問四　AとBの「物」はそれぞれ何を意味しているか。具体的に記しなさい。

問五　傍線部④「この道」とは「良秀」について言えばどのようなことか。具体的に記しなさい。

問六　何に対して傍線部⑤「めで合へり」なのか。具体的に記しなさい。

問七　この話からうかがえる「良秀」の人物像としてあてはまらないものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア　常識外れの行動を取る人物である。

イ　家族に対する情愛よりも芸術に重きを置く人物である。

ウ　単純な行動を取るあわて者である。

エ　利害を第一に取る打算的な人物である。

オ　一つのことに没入すると他のことを忘れてしまう人物である。

問七	問六	問五	問四	問三	問二	問一
			A	1	ア	1
				2		
				3	イ	
				①		
						2
				②		
				③		
						3
				④		
			B			

学年
組
番号
氏名
得点

宇治拾遺物語（絵仏師良秀）　＊

〔出題の意図と留意点〕　歴史的仮名遣いの読み、基本古語の読み、意味を確認する。会話・動作の主体を正しく読み取り、話の内容を理解しているか、確認する。

☆解答例と配点

問一　１　おしおおいて　２　なんじょう　３　しょうとく　〈2点×3〉

問二　**ア**　きぬ　**イ**　めこ　〈3点×2〉

問三　１　ウ　２　イ　３　①　感動　②　形容動　③　動　④　名　〈2点×6〉

問四　Ａ　物の化、超自然の恐ろしいもの　Ｂ　品物、食物・衣服・調度・財産など〈3点×2〉

問五　仏像画家として生計を営むこと　〈5点〉

問六　良秀の描いた不動尊の画像　〈5点〉

問七　ウ　〈10点〉

計50点

宇治拾遺物語（絵仏師良秀）　＊＊

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。［50点］

これも今は昔、絵仏師良秀といふありけり。家の隣より、火出できて、風おしおほひて、せめければ、逃げ出でて、大路へ出でにけり。①人の書かする仏もおはしけり。また、衣着ぬ妻子なども、さながら内にありけり。それも知らず、ただ逃げ出でたるをことにして、向かひのつらに立てり。

見れば、すでに我が家に移りて、煙・炎、くゆりけるまで、おほかた、向かひのつらに立ちて眺めければ、「Aあさましきこと。」とて、人ども、来とぶらひけれど、騒がず。「いかに。」と、人、言ひければ、向かひに立ちて、家の焼くるを見て、②うちうなづきて、時々笑ひけり。「あはれ、③しつるせうとくかな。年ごろは、Bわろく書きけるものかな。」と言ふときに、とぶらひに来たる者ども、「こはいかに、かくては立ちたまへるぞ。Cあさましきことかな。物のつきたまへるか。」と言ひければ、「なんでふ、物のつくべきぞ。年ごろ、不動尊の火炎をD悪しく書きけるなり。今見れば、かうこそ燃えけれと、心得つるなり。これこそ、せうとくよ。この道を立てて世にあらんには、仏だによく書きたてまつらば、百千の家も出で来なん。わ党たちこそ、④させる能もおはせねば、物をも惜しみたまへ。」と言ひて、あざ笑ひてこそ立てりけれ。

その後にや、良秀がよおり不動とて、今に、人々、めで合へり。

問一　傍線部①、④の本文中での意味を簡潔に書きなさい。

問二　波線部AとCの「あさましきこと」はそれぞれ何に対して言ったものか。適切なものを一つ選び記号で答えなさい。

ア　良秀が火事に動転して、何もできないでいることに対して、

イ　良秀が我が家が燃えるのを、平然と見て笑っていることに対して、

ウ　火事が発生し、良秀の家にまで燃え移ったことに対して、

エ　妻子が焼死して茫然としている良秀に対して、

オ　災難を、せめて価値あるものに変えようとしている良秀に同情して、

問三　傍線部②「うちうなづきて、時々笑ひけり。」の根拠は何か。良秀の心を説明している部分を、初めと終わりの五文字で示しなさい。（句読点を含む）

問四　傍線部③「しつるせうとくかな。」について答えなさい。

1　平叙文に書き直しなさい。

2　現代語訳しなさい。

問五　波線部B「わろく書きける」と、D「悪しく書きける」の違いを説明しなさい。

問六　「宇治拾遺物語」についての説明としてあてはまらないものを一つ選びなさい。

ア　十四世紀前半の成立で、選者は宇治大納言と言われている。

イ　以前に「宇治大納言物語」が存在したことが想定される。

ウ　人間生活の様々な姿が描かれ、人間の心理が的確に描かれている。

エ　口誦性豊かな和文体で、会話文も多く読みやすい。

オ　「今昔物語」と約八十編の重複がある。

問六	問五		問四		問三	問二	問一	
	D	B	2	1		A	④	①
						C		
					﹀			

学年
組
番号
氏名
得点

宇治拾遺物語（絵仏師良秀）　＊＊

〔出題の意図と留意点〕　重要古語や文法の基本事項を確認する。これらの修得には毎日の学習の積み重ねが大切である。また、本文の内容を整理し、話のおもしろさを確認させたい。

☆解答例と配点

問一　①　人が良秀に描かせた仏像画　　④　たいした才能　　〈5点×2〉

問二　A　ウ　　C　イ　　〈2点×5〉

問三　年ごろ、不～つるなり。　〈6点〉

問四　1　せうとくしつるかな。　　2　大変なもうけものをしたなあ。　〈6点×2〉

問五　B　あまり上手には描いていなかった。　　C　実に下手に描いていた。　〈4点×2〉

問六　ア　〈4点〉

計50点